

教学マネジメントとは

大学がその教育目的を達成するために行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、三つの方針に基づく体系的で組織的な教育の展開、その成果の点検・評価を行い、教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善に取り組むことが必要。

出典) 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申) 用語解説

三つの方針

教育目的(育てたい人材像)の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力(DP)をどのようなプログラムを通じて育成するか (国文学科 子ども学科)

1-1 教育課程の編成

- ① DPIに対して必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成
- ② DPとの関係が明らかでない科目は見直しや廃止を検討

1-2 カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングの設定

- ① 体系的な教育課程の明確化
- ② どのDPを達成(学修成果を獲得)するために、どの科目が設置されているかということを明確化
- ③ DPを達成(学修成果を獲得)するために、どの科目が連携し、年次配当されているかを明確化
- ④ 科目間の連携や科目内容の難易を明確化

2-1 シラバスの作成

- ① カリキュラムマップに基づいた到達目標の設定(DPとシラバスの連動)
- ② 到達目標を適正に測る成績評価の方法と配分の設定
- ③ ②で定めた成績評価の基準と根拠の明確化
- ④ 同一科目、科目群、オムニバス担当等での成績評価基準の調整、共通理解、一定の統一化
- ⑤ ガイドライン化による①～⑤の徹底と平準化

2-2 シラバスのチェック

- ① シラバスの適切性についてセルフチェック
- ② シラバスの適切性について担当教員以外の第三者がチェック

3 授業の実施

- ① シラバスに基づいた計画的な実施
- ② 各課題の評価基準(ルーブリック等)の提示による学修目標の明確化
- ③ 成果物のフィードバックの徹底による学修目標の明確化と説明責任

FD・SDの実施

これら「教学マネジメント」及びサイクルを効果的、実効性のあるものにする

7 情報の公表

- ① 積極的な説明責任を果たすことによる社会評価と信頼の獲得
- ② 第三者による継続的な評価体制の構築
- ③ 志願者に学びの内容と水準を提示

6 課程レベルの学修成果の査定

- ① 大学の評価指標に基づく客観的な査定
- ② 改善ポイントの明確化

5 科目レベルの学修成果の査定

- ① 学生アンケートに基づく分析、自己点検・評価
- ② 大学の評価指標に基づく客観的な査定
- ③ 授業検討票による改善方策の検討と公表によるフィードバック
- ④ 委員会・学科による②で達成水準を満たしていない科目のチェック

4-1 成績評価の実施

- ① 到達目標の達成度を適切に評価
- ② シラバスに基づいた透明性のある評価
- ③ 根拠の保管(説明責任)
- ④ ガイドライン化による①～③の徹底と平準化

4-2 成績分布状況のチェックと公表

- ① 成績評価の妥当性の検証
- ② 成績評価方法についてのFDや協議の実施
- ③ 学生への説明責任(特に同一科目、科目群、オムニバス担当等)